

イエスとの対話篇（文語訳）

——マルコ福音書より抜粋——

資料 2026年9月27日

1:4 バプテスマのヨハネ出で、荒野にて罪の赦を得さする悔改のバプテスマを宣傳ふ。1:7
かれ宣傳へて言ふ

『我よりも力ある者、わが後に来る。我は屈みてその鞋の紐をとくにも足らず、1:8

我は水にて汝らにバプテスマを施せり。されど彼は聖靈にてバプテスマを施さん』

1:9 その頃イエス、ガリラヤのナザレより來り、ヨルダンにてヨハネよりバプテスマを受け給ふ。1:10 かくて水より上るをりしも、天さけゆき、御靈、鴿のごとく己に降るを見給ふ。

1:11 かつ天より聲出づ

『なんぢは我が愛しむ子なり、我なんぢを悦ぶ』

1:14 ヨハネの囚はれし後、イエス、ガリラヤに到り、神の福音を宣傳へて言ひ給ふ、1:15

『時は満てり、神の國は近づけり、汝ら悔改めて福音を信ぜよ』

1:16 イエス、ガリラヤの海にそひて歩みゆき、シモンと其の兄弟アンデレとが、海に網うちをるを見給ふ。かれらは漁人なり。1:17 イエス言ひ給ふ

『われに従ひきたれ、汝等をして人を漁る者とならしめん』

1:18 彼ら直ちに網をすてて従へり。

1:23 時にその會堂に、穢れし靈に憑かれたる人あり、叫びて言ふ1:24

『ナザレのイエスよ、我らは汝と何の關係あらんや、汝は我らを亡さんとて來給ふ。

われは汝の誰なるを知る、神の聖者なり』

1:25 イエス禁めて言ひ給ふ

『黙せ、その人を出でよ』

1:26 穢れし靈その人を癡癲けさせ、大聲をあげて出づ。1:27 人々みな驚き相問ひて言ふ

『これ何事ぞ、權威ある新しき教なるかな、穢れし靈すら命ずれば従ふ』

1:28 いいにイエスの噂あまねくガリラヤの四方に弘りたり。

1:36 シモン及び之と偕にをる者ども、その跡を慕ひゆき、1:37 イエスに遇ひて言ふ
『人みな汝を尋ぬ』

1:38 イエス言ひ給ふ

『いざ最寄の村々に往かん、われ彼處にも教を宣ふべし、我はこの爲に出で來
りしなり』

1:39 遂にゆきて、徧くガリラヤの會堂にて教を宣べ、かつ惡鬼を逐ひ出し給へり。

1:40 一人の癩病人みもとに來り、跪づき請ひて言ふ



『御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』

1:41 イエス憫みて、手をのべ彼につけて

『わが意なり、潔くなれ』

と言ひ給へば、1:42 直ちに癩病さりて、その人きよまれり。1:43 やがて彼を去らしめんとて、厳しく戒めて言ひ給ふ1:44

『つつしみて誰にも語るな、唯ゆきて己を祭司に見せ、モーセが命じたる物を

汝の潔のために献げて、人々に證せよ』

1:45 されど彼いでて此の事を大に述べつたへ、徧く弘め始めたれば、この後イエスあらはに町に入りがたく、外の寂しき處に留りたまふ。人々四方より御許に來れり。

2:4 群衆によりて御許にゆくこと能はざれば、在す所の屋根を穿ちあけて、中風の者を床のまま縋り下せり。2:5 イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ

『子よ、汝の罪ゆるされたり』

2:6 ある學者たち其處に坐しゐたるが、心の中に、2:7

『この人なんぞ斯く言ふか、これは神を瀆すなり、神ひとりの外は誰か罪を赦すことを得べき』

と論ぜしかば、2:8 イエス直ちに彼等がかく論ずるを心に悟りて言ひ給ふ

『なにゆる斯かることを心に論ずるか、9 中風の者に「なんぢの罪ゆるされたり」

と言ふと「起きよ、床をとりて歩め」と言ふと、孰か易き。10 人の子の地に

て罪を赦す權威ある事を、汝らに知らせん爲に』

——中風の者に言ひ給ふ—— 2:11

『なんぢに告ぐ、起きよ、床をとりて家に歸れ』

2:12 彼おきて直ちに床をとりあげ、人々の眼前いで往けば、皆おどろき、かつ神を崇め

て言ふ

『われら斯くの如きことは斷えて見ざりき』

2:16 パリサイ人の學者ら、イエスの罪人・取税人とともに食し給ふを見て、その弟子た

ちに言ふ

『なにゆる取税人・罪人とともに食するか』

2:17 イエス聞きて言ひ給ふ

『健かなる者は醫者を要せず、ただ病ある者これを要す。我は正しき者を招かんとにあらで、罪人を招かんとて來れり』

2:18 ヨハネの弟子とパリサイ人とは、斷食しゐたり。人々イエスに來りて言ふ

『なにゆるヨハネの弟子とパリサイ人の弟子とは斷食して、汝の弟子は斷食せぬか』

2:19 イエス言ひ給ふ

『新郎の友だち、新郎と偕にをるうちは斷食し得べきか、新郎と偕にをる間は、



斷食するを得ず。²⁰されど新郎をとらるる日きたらん、その日には斷食せん。

²¹誰も新しき布の裂を舊き衣に縫ひつくることは爲じ。もし然せば、その補ひたる新しきものは、舊き物をやぶり、破綻さらに甚だしからん。²²誰も新しき葡萄酒を、ふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、葡萄酒は囊を

はりさきて、葡萄酒も囊も廢らん。新しき葡萄酒は、新しき革囊に入るなり』

2:23 イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち歩みつつ穂を摘み始めたれば、2:24 パリサイ人、イエスに言ふ

『視よ、彼らは何ゆゑ安息日に爲まじき事をするか』

2:25 答へ給ふ

『ダビデその伴へる人々と共に乏しくして飢ゑしとき爲しし事を未だ讀まぬか。²⁶即ち大祭司アビアタルの時、ダビデ神の家に入りて、祭司のほかは食ふまじき供のパンを取りて食ひ、おのれと偕なる者にも與へたり』

2:27 また言ひたまふ

『安息日は人のために設けられて、人は安息日のために設けられず。²⁸されば人の子は安息日にも主たるなり』

3:2 人々イエスを訴へんと思ひて、安息日にかの人を醫すや否やと窺ふ。3:3 イエス手なえたる人に

『中に立て』

といひ、3:4 また人々に言ひたまふ

『安息日に善をなすと惡をなすと、生命を救ふと殺すと、孰かよき』

彼ら黙然たり。3:5 イエスその心の頑固なるを憂ひて、怒り見回して、手なえたる人に

『手を伸べよ』

と言ひ給ふ。かれ手を伸べたれば癒ゆ。

3:11 また穢れし靈イエスを見る毎に、御前に平伏し、叫びて

『なんぢは神の子なり』

と言ひたれば、3:12

『我を顯すな』

とて、嚴しく戒め給ふ。

3:21 その親族の者これを聞き、イエスを取押へんとて出で來る、イエスを狂へりと謂ひてなり。3:22 又エルサレムより下れる學者たちも

『彼はベルゼブルに憑かれたり』

と言ひ、かつ

『惡鬼の首によりて惡鬼を逐ひ出すなり』

と言ふ。3:23 イエス彼らと呼びよせ、譬にて言ひ給ふ



『サタンはいかでサタンを逐ひ出し得んや。²⁴もし國分れ争はば、其の國立つこと能はず。²⁵もし家分れ争はば、其の家立つこと能はざるべし。²⁶もしサタン己に逆ひて分れ争はば、立つこと能はず、反つて亡び果てん。²⁷誰にても先づ強き者を縛らずば、強き者の家に入りて其の家財を奪ふこと能はじ、縛りて後その家を奪ふべし。²⁸まことに汝らに告ぐ、人の子らの凡ての罪と、けがす瀆とは赦されん。²⁹されど聖靈をけがす者は、永遠に赦されず、永遠の罪に定めらるべし』

3:30 これは彼らイエスを

『穢れし靈に憑かれたり』

と云へるが故なり。

3:31 ここにイエスの母と兄弟と來りて外に立ち、人を遣してイエスを呼ばしむ。 3:32 群衆イエスを環りて坐したりしが、或者いふ

『視よ、なんぢの母と兄弟姉妹と外にありて汝を尋ぬ』

3:33 イエス答へて言ひ給ふ

『わが母、わが兄弟とは誰ぞ』

3:34 かくて周圍に坐する人々を見回して言ひたまふ

『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。³⁵誰にても神の御意を行ふものは、是わが兄弟、わが姉妹、わが母なり』

4:2 譬にて數多の事ををしへ、教の中に言ひたまふ、4:3

『聽け、種播くもの、播かんとて出づ。⁴播くとき、路の傍らに落ちし種あり、鳥きたりて啄む。⁵土うすき磽地に落ちし種あり、土深からぬによりて、速かに萌え出でたれど、⁶日出でてやけ、根なき故に枯る。⁷茨の中に落ちし種あり、茨そだち塞ぎたれば、實を結ばず。⁸良き地に落ちし種あり、生え出でて茂り、實を結ぶこと、三十倍、六十倍、百倍せり』⁹また言ひ給ふ『きく耳ある者は聽くべし』

4:10 イエス人々を離れ居給ふとき、御許にをる者ども、十二弟子とともに、此等の譬を問ふ。 4:11 イエス言ひ給ふ

『なんぢらには神の國の奧義を與ふれど、外の者には、凡て譬にて教ふ。¹²これ「見るとき見ゆとも認めず、聽くとき聞ゆとも悟らず、翻へりて赦さるる事なからん」爲なり』

4:13 また言ひ給ふ

『なんぢら此の譬を知らぬか、さらば争でもろもろの譬を知り得んや。¹⁴播く者は御言を播くなり。¹⁵御言の播かれて路の傍らにありとは、かかる人をいふ、即ち聞くととき、直ちにサタン來りて、その播かれたる御言を奪ふなり。¹⁶同



じく播かれて磽地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言をききて、直ちに喜び受くれども、¹⁷その中に根なければ、ただ暫し保つのみ、御言のために患難また迫害にあふ時は、直ちに躓くなり。¹⁸また播かれて茨の中にありとは、かかる人をいふ、¹⁹すなはち御言をきけど、世の心労、財貨の惑、さまざまの慾いりきたり、御言を塞ぐによりて、遂に實らざるなり。²⁰播かれて良き地にありとは、かかる人をいふ、即ち御言を聴きて受け、三十倍、六十倍、百倍の實を結ぶなり』

4:21 また言ひたまふ

『升のした、寢臺の下におかんとて、燈火をもち來るか、燈臺の上におく爲ならずや。²²それ顯るる爲ならで隠るるものなく、明かにせらるる爲ならで秘めらるるものなし。²³聴く耳ある者は聴くべし』

4:24 また言ひ給ふ

『なんぢら聴くことに心せよ、汝らが量る量にて量られ、更に増し加へらるべし。²⁵それ有てる人は、なほ與へられ、有たぬ人は、有てる物をも取らるべし』

4:26 また言ひたまふ

『神の國は、或人たねを地に播くが如し、²⁷日夜起臥するほどに、種はえ出でて育てども、その故を知らず。²⁸地はおのづから實を結ぶものにして、初には苗、つぎに穂、つひに穂の中に充ち足れる穀なる。²⁹實みのれば直ちに鎌を入れる、收穫時の到れるなり』

4:30 また言ひ給ふ

『われら神の國を何になずらへ、如何なる譬をもて示さん。³¹一粒の芥種のごとし、地に播く時は、世にある萬の種よりも小けれど、³²既に播きて生え出づれば、萬の野菜よりは大きく、かつ大なる枝を出して、空の鳥その蔭に棲み得るほどになるなり』

4:33 かくのごとき數多の譬をもて、人々の聴きうる力に隨ひて、御言を語り、4:34 譬ならでは語り給はず、弟子たちには、人なき時に凡ての事を釋き給へり。

4:35 その日、夕になりて言ひ給ふ

『いざ彼方に往かん』

4:38 イエスは艫の方に茵を枕として寝ねたまふ。弟子たち呼び起して言ふ

『師よ、我らの亡ぶるを顧み給はぬか』

4:39 イエス起きて風をいましめ、海に言ひたまふ

『黙せ、鎮れ』

乃ち風やみて、大なる風となりぬ。4:40 かくて弟子たちに言ひ給ふ

『なに故かく臆するか、信仰なきは何ぞ』



4:41 かれら甚く懼れて互に言ふ

『いは誰ぞ、風も海も順ふとは』

5:6 かれ遙にイエスを見て、走りきたり、御前に平伏し、⁹大聲に叫びて言ふ

『いと高き神の子イエスよ、我は汝と何の關係あらん、神によりて願ふ、我を苦しめ給ふな』

5:8 いれはイエス

『穢れし靈よ、この人より出で往け』と言ひ給ひしに因るなり。⁹ イエスまた『なんぢの名は何か』

と問ひ給へば

『わが名はレギオン、我ら多きが故なり』

と答へ、5:10 また已らを此の地の外に逐ひやり給はざらんことを切に求む。5:11 彼處の山邊に豚の大なる群、食しゐたり。5:12 惡鬼どもイエスに求めて言ふ

『われらを遣して豚に入らしめ給へ』

5:13 イエス許したまふ。穢れし靈いでて、豚に入りたれば、二千匹ばかりの群、海に向ひて崖を駆けくだり、海に溺れたり。

5:18 イエス舟に乘らんとし給ふとき、惡鬼に憑かれたりしもの偕に在らん事を願ひたれど、5:19 許さずして言ひ給ふ

『なんぢの家に、親しき者に歸りて、主がいかに大なる事を汝に爲し、いかに汝を憫み給ひしかを告げよ』

5:22 會堂司の一人、ヤイロという者きたり、イエスを見て、その足下に伏し、5:23 切に願ひて言ふ

『わが稚なき娘、いまはの際なり、來りて手をおき給へ、さらば救はれて活くべし』

5:25 いいに十二年血漏を患ひたる女あり。

5:27 イエスの事をききて、群衆にまじり、後に來りて、御衣にさはる、5:28

『その衣にだに觸らば救はれん』

と自ら謂へり。5:29 かくて血の泉ただちに乾き、病のいえたるを身に覺えたり。5:30 イエス直ちに能力の己より出でたるを自ら知り、群衆の中にて、振反り言ひたまふ

『誰が我の衣に觸りしぞ』

5:31 弟子たち言ふ

『群衆の押迫るを見て、誰が我に觸りしぞと言ひ給ふか』

5:32 イエスこの事を爲しし者を見んとて見回し給ふ。5:33 女おそれ戦き、己が身になりし事を知り、來りて御前に平伏し、ありしままを告ぐ。5:34 イエス言ひ給ふ

『娘よ、なんぢの信仰なんぢを救へり、安らかに往け、病いえて健かになれ』

5:35 かく語り給ふほどに、會堂司の家より人々きたりて言ふ



『なんぢの娘は早や死にたり、争でなほ師を煩はすべき』

5:36 イエス其の告ぐる言を傍より聞きて、會堂司に言ひたまふ

『懼るな、ただ信ぜよ』

5:38 彼ら會堂司の家に來る。イエス多くの人の、甚く泣きつ叫びつする騒を見、5:39 入りて言ひ給ふ

『なんぞ騒ぎかつ泣くか、幼兒は死にたるにあらず、寐ねたるなり』

5:40 人々イエスを嘲笑ふ。イエス彼等をみな外に出し、幼兒の父と母と己に伴へる者とを率きつれて、幼兒のをる處に入り、5:41 幼兒の手を執りて

『タリタ、クニ』

と言ひたまふ。少女よ、我なんぢに言ふ、起きよ、との意なり。5:42 直ちに少女たちて歩む、その歳十二なりければなり。彼ら直ちに甚く驚きおどろけり。

6:2 安息日になりて、會堂にて教へ始め給ひしに、聞きたる多くのもの驚きて言ふ

『この人は此等のことを何處より得しぞ、此の人の授けられたる智慧は何ぞ、その手にて爲すかくのごとき能力あるわざは何ぞ。6:3 此の人は木匠にして、マリヤの子、またヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ならずや、其の姉妹も此處に我らと共にをるに非ずや』

遂に彼に躓けり。6:4 イエス彼らに言ひたまふ

『預言者は、おのが郷、おのが親族、おのが家の外にて尊ばれざる事なし』

6:5 彼らの信仰なきを怪しみ給へり。

6:6 ただ草鞋ばかりをはきて、二つの下衣をも著ぐることを命じ給へり。6:10 かくて言ひたまふ

『何處にても人の家に入らば、その地を去るまで其處に留れ。11 何地にても汝らを受けず、汝らに聽かずば、其處を出づるとき、證のために足の裏の塵を拂へ』

6:12 いいに弟子たち出で往きて、悔改むべきことを宣傳へ、6:13 多くの惡鬼を逐ひいだし、多くの病める者に油をぬりて醫せり。

6:30 使徒たちイエスの許に集りて、その爲ししこと、教へし事をことごとく告ぐ。6:31 イエス言ひ給ふ

『なんぢら人を避け、寂しき處に、いざ來りて暫し息へ』

これは往來の人おほくして、食する暇だになかりし故なり。

6:35 時すでに晩くなりたれば、弟子たち御許に來りていふ

『いひは寂しき處、はや時も晩し。36 人々を去らしめ、周圍の里また村に往きて、己がために食物を買はせ給へ』

6:37 答へし言ひ給ふ



『なんぢら食物を與へよ』

弟子たち言ふ

『われら往きて二百デナリのパンを買ひ、これに與へて食はすべきか』

6:38 イエス言ひ給ふ

『パン幾つあるか、往きて見よ』

彼ら見ていふ

『五つ、また魚二つあり』

6:41 かくてイエス五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンをさき、弟子たちに付して人々の前に置かしめ、二つの魚をも人毎に分け給ふ。

6:49 弟子たち其の海の上を歩み給ふを見、變化の者ならんと思ひて叫ぶ。 6:50 皆これを見て心騒ぎたるに因る。イエス直ちに彼らに語りて言ひ給ふ

『心安かれ、我なり、懼るな』

6:51 かくて弟子たちの許にゆき、舟に登り給へば、風やみたり。弟子たち心の中にて甚く驚く、

7:5 パリサイ人および學者らイエスに問ふ

『なにゆゑ汝の弟子たちは、古への人の言傳に遵ひて歩まず、潔からぬ手にて食事するか』

7:6 イエス言ひ給ふ

『イザヤは汝ら偽善者につきて能く預言せり。「この民は口唇にて我を敬ふ、されどその心は我に遠ざかる。⁷ただ徒らに我を拜む、人の訓誡を教とし教へて」と録したり。⁸なんぢらは神の誡命を離れて、人の言傳を固く執る』

7:9 また言ひたまふ

『汝等はおのれの言傳を守らんとて、能くも神の誡命を棄つ。¹⁰即ちモーセは「なんぢの父、なんぢの母を敬へ」といひ「父また母を罵る者は、必ず殺さるべし」といへり。¹¹然るに汝らは「人もし父また母にむかひ、我が汝に對して負ふ所のものは、コルバン即ち供物なりと言はば可し」と言ひて、¹²そののち人をして、父また母に事ふること無からしむ。¹³かく汝らの傳へたる言傳によりて、神の言を空しうし、又おほく此の類の事をなしをるなり』

7:14 更に群衆を呼び寄せて言ひ給ふ

『なんぢら皆われに聽きて悟れ。¹⁵外より人に入りて、人を汚し得るものなし、されど人より出づるものは、これ人を汚すなり』

7:17 イエス群衆を離れて家に入り給ひしに、弟子たち其の譬を問ふ。 7:18 彼らに言ひ給ふ

『なんぢらも然か悟なきか、外より人に入る物の、人を汚しえぬを悟らぬか、



19これ心には入らず、腹に入りて厠におつるなり』かく凡ての食物を潔しとし給へり。20また言ひたまふ『人より出づるものは、此人を汚すなり。』

『21それ内より、人の心より、悪しき念いづ、即ち淫行・竊盗・殺人、22姦淫・慳貪・邪曲・詭計・好色・嫉妬・誹謗・傲慢・愚痴。23すべて此等の悪しき事は、内より出でて人を汚すなり』

7:25ここに穢れし靈に憑かれたる稚なき娘をもてる女、ただちにイエスの事をきき、來りて御足の許に平伏す。7:26この女はギリシヤ人にて、スロ・フェニキヤの生なり。その娘より惡鬼を逐ひ出し給はんことを請ふ。7:27イエス言ひ給ふ

『まづ子供に飽かしむべし、子供のパンをとりて小狗に投げ與ふるは善からず』

7:28女こたへて言ふ

『然り、主よ、食卓の下的小狗も子供の食屑を食ふなり』

7:29イエス言ひ給ふ

『なんぢ此の言によりて「安んじ」往け、惡鬼は既に娘より出でたり』

7:30をんな家に歸りて見るに、子は寢臺の上に臥し、惡鬼は既に出でたり。

7:33イエス群衆の中より、彼をひとり連れ出し、その兩耳に指をさし入れ、また唾して其の舌に觸り、7:34天を仰ぎて嘆じ、その人に對ひて

『エパタ』

と言ひ給ふ、ひらけよとの意なり。7:35かくてその耳ひらけ、舌の縛ただちに解け、正しく物いへり。7:37また甚だしく打驚きて言ふ

『かれの爲しし事は皆よし、聾者をも聞えしめ、啞者をも物いはしむ』

8:1その頃また大なる群衆にて食ふべき物なかりしかば、イエス弟子たちを召して言ひ給ふ、8:2

『われ此の群衆を憫む、既に三日われと偕にをりて、食ふべき物なし。3飢ゑしままにて其の家に歸らしめば、途にて疲れ果てん。其の中には遠くより來れる者あり』

8:4弟子たち答へて言ふ

『いの寂しき地にては、何處よりパンを得て、この人々を飽かしむべき』

8:5イエス問ひ給ふ

『パン幾つあるか』

答へて

『七つ』

といふ。8:6イエス群衆に命じて地に坐せしめ、七つのパンを取り、謝して之を裂き、弟子たちに與へて群衆の前におかしむ。弟子たち乃ちその前におく。8:8人々食ひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に滿ちたり。8:9その人おほよそ四千人なりき。



8:11 パリサイ人いで来りて、イエスと論じはじめ、之を試みて天よりの徴をもとむ。 8:12
イエス心に深く歎じて言ひ給ふ

『なにゆる今の代は徴を求むるか、まことに汝らに告ぐ、徴は今の代に斷えて
與へられじ』

8:13 イエス彼らを戒めて言ひたまふ

『愼みて、パリサイ人のパンだねと、ヘロデのパンだねとに心せよ』

8:14 弟子たち互に、これはパン無き故ならんと語り合ふ。 8:15 イエス知りて言ひたまふ

『何ぞパン無き故ならんと語り合ふか、未だ知らぬか、悟らぬか、汝らの心な
ほ鈍きか。 18 目ありて見ぬか、耳ありて聴かぬか。又なんぢら思ひ出でぬか、
19 五つのパンを裂きて、五千人に與へし時、その餘を幾筐ひろひしか』

弟子たち言ふ

『十二』

『七つのパンを裂きて四千人に與へし時、その餘を幾籃ひろひしか』

弟子たち言ふ

『七』

イエス言ひたまふ

『未だ悟らぬか』

8:23 イエス盲人の手をとりて、村の外に連れ行き、その目に唾し、御手をあてて

『なにか見ゆるか』

と問ひ給へば、8:24 見上げて言ふ

『人を見る、それは樹の如き物の歩くが見ゆ』

8:25 また御手をその目にあて給へば、視凝めたるに、癒えて凡てのもの明かに見えたり。

8:26 かへし

『村にも入るな』

と言ひて、その家に歸し給へり。

8:27 イエス其の弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々に出でゆき、途にて弟子たちに問
ひて言ひたまふ

『人々は我を誰と言ふか』

8:28 答へて言ふ

『バプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人は預言者の一人』

8:29 また問ひ給ふ

『なんぢらは我を誰と言ふか』

ペテロ答へて言ふ

『なんぢはキリストなり』



8:30 イエス己がことを誰にも告ぐなど、彼らを戒め給ふ。8:31 かくて人の子の必ず多くの苦難をうけ、長老・祭司長・學者らに棄てられ、かつ殺され、三日の後に甦へるべき事を教へはじめ、8:32 此の事をあらはに語り給ふ。ここにペテロ、イエスを傍にひきて戒め出でたれば、8:33 イエス振反りて弟子たちを見、ペテロを戒めて言ひ給ふ

『サタンよ、わが後に退け、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』

8:34 かくて群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言ひたまふ

『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて我に従へ。』

35 己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我が爲また福音の爲に己が生命をうしなふ者は、之を救はん。36 人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、37 人その生命の代に何を與へんや。38 不義なる罪深き今の代にて、我または我が言を恥づる者をば、人の子もまた、父の榮光をもて、聖なる御使たちと共に來らん時に恥づべし』

9:1 また言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、此處に立つ者のうちに、神の國の、權能をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』

9:2 六日の後、イエスただペテロ、ヤコブ、ヨハネのみを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。かくて彼らの前にて其の状かはり、9:3 其の衣かがやきて甚だ白くなりぬ、世の晒布者を爲し得ぬほど白し。9:4 エリヤ、モーセとともに彼らに現れて、イエスと語りたり。

9:5 ペテロ差出でてイエスに言ふ

『ラビ、我らの此處に居るは善し。われら三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤのためにせん』

9:6 彼等いたく懼れたれば、ペテロ何と言ふべきかを知らざりしなり。9:7 かくて雲おこり、彼らを覆ふ。雲より聲出づ

『これは我が愛しむ子なり、汝ら之に聽け』

9:8 弟子たち急ぎ見回すに、イエスと己らとの他には、はや誰も見えざりき。9:9 山をくだる時、イエス彼らに、人の子の、死人の中より甦へるまでは、見しことを誰にも語るなと戒め給ふ。9:10 彼ら此の言を心にとめ『死人の中より甦へる』とは、如何なる事ぞと互に論じ合ふ。9:11 かくてイエスに問ひて言ふ

『學者たちは、何故エリヤまづ來るべしと言ふか』

9:12 イエス言ひ給ふ

『實にエリヤ先づ來りて、萬の事をあらたむ。さらば人の子につき、多くの苦難を受け、かつ蔑せらるる事の録されたるは何ぞや。13 されど我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。然るに彼に就きて録されたる如く、人々心のままに之を待へり』



9:15 群衆みなイエスを見るや否や、いたく驚き、御許に走り往きて禮をなせり。 9:16 イエス問ひ給ふ

『なんぢら何を彼らと論するか』

9:17 群衆のうちの一人こたふ

『師よ、唾の靈に憑かれたる我が子を御許に連れ來れり。 9:18 靈いづこにても彼に憑けば、痙攣け泡をふき、齒をくひしぱり、而して瘦せ衰ふ。御弟子たちに之を逐ひ出すことを請ひたれど能はざりき』

9:19 いいに彼らに言ひ給ふ

『ああ信なき代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我が許に連れきたれ』

9:20 乃ち連れきたる。彼イエスを見しとき、靈ただちに之を痙攣けたれば、地に倒れ、泡をふきて轉び廻る。 9:21 イエスその父に問ひ給ふ

『いつの頃より斯くなりしか』

父いふ

『をさなき時よりなり。 9:22 靈しばしば彼を火のなか水の中に投げ入れて亡きとせり。されど汝なにか爲し得ば、我らを憫みて助け給へ』

9:23 イエス言ひたまふ

『爲し得ばと言ふか、信する者には、凡ての事なし得らるるなり』

9:24 その子の父ただちに叫びて言ふ

『われ信ず、信仰なき我を助け給へ』

9:25 イエス群衆の走り集るを見て、穢れし靈を禁めて言ひたまふ

『唾にて耳聾なる靈よ、我なんぢに命ず、この子より出でよ、重ねて入るな』

9:26 靈さけびて甚だしく痙攣けさせて出でしに、その子、死人の如くなりたれば、多くの者これを死にたりと言ふ。 9:27 イエスその手を執りて起し給へば立たり。 9:28 イエス家に入り給ひしとき、弟子たち竊に問ふ

『我等いかなれば逐ひ出し得ざりしか』

9:29 答へ給ふ

『この類は祈に由らざれば、如何にすとも出でざるなり』

9:30 此處を去りてガリラヤを過ぐ。イエス人の此の事を知るを欲し給はず。 9:31 これは弟子たちに教をなし、かつ

『人の子は人々の手にわたされ、人々これを殺し、殺されて三日ののち甦へるべし』

と言ひ給ふが故なり。 9:32 弟子たちはその言を悟らず、また問ふ事を恐れたり。

9:33 かくてカペナウムに到る。イエス家に入りて弟子たちに問ひ給ふ



『なんぢら途すがら何を論ぜしか』

9:34 弟子たち黙然たり、これは途すがら、誰か大ならんと、互に争ひたるに因る。 9:35
イエス坐して十二弟子を呼び、之に言ひたまふ

『人もし頭たらんと思はば、凡ての人の後となり、凡ての人の役者となるべし』

9:36 かくてイエス幼児をとりて彼らの中におき、之を抱きて言ひ給ふ、9:37

『おほよそ我が名のために斯かる幼児の一人を受くる者は、我を受くるなり。
我を受くる者は、我を受くるにあらず、我を遣しし者を受くるなり』

9:38 卽ハネ言ふ

『師よ、我らに従はぬ者の、御名によりて惡鬼を逐ひ出すを見しが、我らに従はぬ
故に、之を止めたり』

9:39 イエス言ひたまふ

『止むな、我が名のために能力ある業をおこなひ、俄に我を譏り得る者なし。』

40 我らに逆はぬ者は、我らに附く者なり。 41 キリストの者たるによりて、汝ら
に一杯の水を飲まする者は、我まことに汝らに告ぐ、必ずその報を失はざる
べし。 42 また我を信ずる此の小さき者の一人を躓かする者は、寧ろ大なる礪白
を頸に懸けられて、海に投げ入れられんかた勝れり。 43 もし汝の手なんちを
躓かせば、之を切り去れ、不具にて生命に入るは、兩手ありてゲヘナの消え
ぬ火に往くよりも勝るなり。 45 もし汝の足なんちを躓かせば、之を切り去れ、
蹇跛にて生命に入るは、兩足ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。
47 もし汝の眼なんちを躓かせば、之を抜き出せ、片眼にて神の國に入るは、
兩眼ありてゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。 48 「彼處にては、その
蛆つぎず、火も消えぬなり」 49 それ人はみな火をもて鹽つけらるべし。 50 鹽は
善きものなり、されど鹽もし其の鹽氣を失はば、何をもて之に味つけん。汝
ら心の中に鹽を保ち、かつ互に和ぐべし』

10:1 イエス此處をたちて、ユダヤの地方およびヨルダンの彼方に來り給ひしに、群衆ま
たも御許に集ひたれば、常のごとく教へ給ふ。 10:2 時にパリサイ人ら來り試みて問ふ

『人その妻を出すはよきか』

10:3 答へて言ひ給ふ

『モーセは汝らに何と命ぜしか』

10:4 彼ら言ふ

『モーセは離縁状を書きて出すことを許せり』

10:5 イエス言ひ給ふ

『汝らの心つれなきによりて、此の誠命を録ししなり。 6 されど開闢の初より「人
を男と女とに造り給へり」 7 「かかる故に人はその父母を離れて、 8 二人のも



の一體となるべし」さればはや二人にはあらず、一體なり。⁹この故に神の合せ給ふものは、人これを離すべからず』

10:10 家に入りて弟子たち復この事を問ふ。 10:11 イエス言ひ給ふ

『おほよそ其の妻を出して他に娶る者は、その妻に對して姦淫を行ふなり。

¹²また妻もし其の夫を棄てて他に嫁がば、姦淫を行ふなり』

10:13 イエスの觸り給はんことを望みて、人々幼兒らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、 10:14 イエス之を見、いきどほりて言ひたまふ

『幼兒らの我に來るを許せ、止むな、神の國は斯くのごとき者の國なり。¹⁵まことに汝らに告ぐ、凡そ幼兒の如くに神の國をうくる者ならずば、之に入るは能はず』

10:16 かくて幼兒を抱き、手をその上におきて祝し給へり。

10:17 イエス途に出で給ひしに、一人はしり來り、跪づきて問ふ

『善き師よ、永遠の生命を嗣ぐためには、我なにを爲すべきか』

10:18 イエス言ひ給ふ

『なにゆる我を善しと言ふか、神ひとりの他に善き者なし。¹⁹誠命は汝が知るところなり「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盗むなかれ」「偽證を立つるなかれ」「欺き取るなかれ」「汝の父と母とを敬へ』』

10:20 彼いふ

『師よ、われ幼き時より皆これを守れり』

10:21 イエス彼に目をとめ、愛しみて言ひ給ふ

『なんぢ尚ほ一つを缺く、往きて汝の有てる物をことごとく賣りて、貧しき者に施せ、さらば財寶を天に得ん。且きたりて我に従へ』

10:22 この言によりて、彼は憂を催し、悲しみつつ去りぬ、大なる資産をもてる故なり。

10:23 イエス見回して弟子たちに言ひたまふ

『富ある者の神の國に入るは如何に難いかな』

10:24 弟子たち此の御言に驚く。イエスまた答へて言ひ給ふ

『子たちよ、神の國に入るは如何に難いかな、²⁵富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』

10:26 弟子たち甚く驚きて互に言ふ

『やらば誰か救はるる事を得ん』

10:27 イエス彼らに目を注めて言ひたまふ

『人には能はねど、神には然らず、夫れ神は凡ての事をなし得るなり』

10:28 ペテロ、イエスに對ひて

『我らは一切をすてて汝に従ひたり』



と言ひ出でたれば、10:29 イエス言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、我がため、福音のために、或は兄弟、あるひは姉妹、或は父、或は母、或は子、或は田畑をすつる者は、³⁰誰にても今、今の時に百倍を受けぬはなし。即ち家・兄弟・姉妹・母・子・田畑を追害と共に受け、また後の世にては、永遠の生命を受けぬはなし。³¹されど多くの先なる者は後に、後なる者は先になるべし』

10:32 エルサレムに上る途にて、イエス先だち行き給ひしかば、弟子たち驚き、随ひ往く者ども懼れたり。イエス再び十二弟子を近づけて、己が身に起らんとする事どもを語り出で給ふ 10:33

『視よ、我らエルサレムに上る。人の子は祭司長・學者らに付されん。彼ら死に定めて、異邦人に付さん。³⁴異邦人は嘲弄し、唾し、鞭うち、遂に殺さん、かくて彼は三日の後に甦へるべし』

10:35 ここにゼベダイの子ヤコブ、ヨハネ御許に來りて言ふ

『師よ、願はくは我らが何にても求むる所を爲したまへ』

10:36 イエス言ひ給ふ

『わが汝らに何を爲さんことを望むか』

10:37 彼ら言ふ

『なんぢの榮光の中にて、一人をその右に、一人をその左に坐せしめ給へ』

10:38 イエス言ひ給ふ

『なんぢらは求むる所を知らず、汝等わが飲む酒杯を飲み、我が受くるバプテスマを受け得るか』

10:39 彼等いふ

『得るなり』

イエス言ひ給ふ

『なんぢら我が飲む酒杯を飲み、また我が受くるバプテスマを受くべし。⁴⁰されど我が右左に坐することは、私の與ふべきものならず、ただ備へられたる人こそ與へらるるなれ』

10:41 十人の弟子これを聞き、ヤコブとヨハネとの事により憤り出でたれば、10:42 イエス彼らを呼びて言ひたまふ

『異邦人の君と認めらるる者の、その民を宰どり、大なる者の、民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。⁴³されど汝らの中には然らず、反つて大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、⁴⁴頭たらんと思ふ者は、凡ての者の僕となるべし。⁴⁵人の子の來れるも、事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』



10:46 かくて彼らエリコに到る。イエスその弟子たち及び大なる群衆と共に、エリコを出でたまふ時、テマイの子バルテマイといふ盲目の乞食、路の傍に坐しをりしが、10:47 ナザレのイエスなりと聞き、叫び出して言ふ

『ダビデの子イエスよ、我を憐みたまへ』

10:48 多くの人かれを禁めて黙さしめんとしたれど、ますます叫びて

『ダビデの子よ、我を憐みたまへ』

と言ふ。10:49 イエス立ち止りて

『かれを呼べ』

と言ひ給へば、人々盲人を呼びて言ふ

『心安かれ、起て、なんぢを呼びたまふ』

10:50 盲人うはぎを脱ぎ捨て、躍り上りて、イエスの許に來りしに、10:51 イエス答へて言ひ給ふ

『わが汝に何を爲さんことを望むか』

盲人いふ

『わが師よ、見えんことなり』

10:52 イエス彼に

『ゆけ、汝の信仰なんぢを救へり』

と言ひ給へば、直ちに見ることを得、イエスに従ひて途を往けり。

11:1 彼らエルサレムに近づき、オリブ山の麓なるベテパゲ及びベタニヤに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、11:2

『むかひの村にゆけ、其處に入らば、やがて人の未だ乗りたることなき驢馬の子の繋ぎあるを見ん、それを解きて牽き來れ。誰かもし汝らに「なにゆゑ

然するか」と言はば「主の用なり、彼ただちに返さん」といへ』

11:3 弟子たち往きて、門の外の路に驢馬の子の繋ぎあるを見て解きたれば、11:4 其處に立つ人々のうちの或者

『なんぢら驢馬の子を解きて何とするか』

と言ふ。

11:5 多くの人は己が衣を、或人は野より伐り取りたる樹の枝を途に敷く。11:6 かつ前に往き後に従ふ者ども呼はりて言ふ

『ホサナ、讃むべきかな、主の御名によりて來る者』11:10 讃むべきかな、今し來る我らの父ダビデの國。「いと高き處にてホサナ』

11:13 遙に葉ある無花果の樹を見て、果をや得んと其のもとに到り給ひしに、葉のほかは何をも見出し給はず、是は無花果の時ならぬに因る。11:14 イエスその樹に對ひて言ひたまふ



『今より後いつまでも、人なんぢの果を食はざれ』
弟子たち之を聞けり。

11:15 彼らエルサレムに到る。イエス宮に入り、その内にて賣買する者どもを逐ひ出し、
兩替する者の臺、鴿を賣るものの腰掛を倒し、11:17 かつ教へて言ひ給ふ

『わが家は、もろもろの國人の祈の家と稱へらるべし』と録されたるにあら
ずや、然るに汝らは之を「強盜の巢」となせり』

11:18 祭司長・學者ら之を聞き、如何にしてかイエスを亡さんと謀る、それは群衆みな其
の教に驚きたれば、彼を懼れしなり。

11:20 彼ら朝早く路をすぎしに、無花果の樹の根より枯れたるを見る。11:21 ペテロ思ひ
出してイエスに言ふ

『ラビ、見給へ、詛ひ給ひし無花果の樹は枯れたり』

11:22 イエス答へて言ひ給ふ

『神を信ぜよ。23 まことに汝らに告ぐ、人もし此の山に「移りて海に入れ」と
言ふとも、其の言ふところ必ず成るべしと信じて、心に疑はずば、その如く
成るべし。24 この故に汝らに告ぐ、凡て祈りて願ふ事は、すでに得たりと信
ぜよ、さらば得べし。25 また立ちて祈るとき、人を怨む事あらば免せ、これ
は天に在す汝らの父の、汝らの過失を免し給はん爲なり』

11:27 かれら又エルサレムに到る。イエス宮の内を歩み給ふとき、祭司長・學者・長老た
ち御許に來りて、11:28

『何の權威をもて此等の事をなすか、誰が此等の事を爲すべき權威を授けしか』

と言ふ。11:29 イエス言ひ給ふ

『われ一言なんぢらに問はん、答へよ、さらば我も何の權威をもて、此等の事
を爲すかを告げん。30 ヨハネのバプテスマは、天よりか、人よりか、我に答
へよ』

11:31 彼ら互に論じて言ふ

『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。11:32 されど人よりと

言はんか……』

彼ら群衆を恐れたり、人みなヨハネを實に預言者と認めたればなり。11:33 遂にイエス
に答へて

『知らず』

と言ふ。イエス言ひ給ふ

『われも何の權威をもて此等の事を爲すか、汝らに告げじ』

12:1 イエス譬をもて彼らに語り出で給ふ

『ある人、葡萄園を造り、籬を環らし、酒槽の穴を掘り、櫓をたて、農夫ども



に貸して、遠く旅立せり。²時いたりて農夫より葡萄園の所得を受取らんとて、僕をその許に遣ししに、³彼ら之を執へて打ちたたき、空手にて歸らしめたり。

⁴又ほかの僕を遣ししに、その首に傷つけ、かつ辱しめたり。⁵また他の者を遣ししに、之を殺したり。又ほかの多くの僕をも、或は打ち或は殺したり。

⁶なほ一人あり、即ち其の愛しむ子なり「わが子は敬ふならん」と言ひて、最後に之を遣ししに、⁷かの農夫ども互に言ふ「これは世嗣なり、いざ之を殺さん、さらばその嗣業は、我らのものとなるべし」。⁸乃ち執へて之を殺し、葡萄園の外に投げ棄てたり。⁹さらば葡萄園の主、なにを爲さんか、來りて農夫どもを亡し、葡萄園を他の者どもに與ふべし。¹⁰汝ら聖書に「造家者らの棄てたる石は、これぞ隅の首石となれる」。¹¹これ主によりて成れるにて、

我らの目には奇しきなり」とある句をすら讀まぬか』

12:12 ここに彼等イエスを執へんと思ひたれど、群衆を恐れたり、この譬の己らを指して言ひ給へるを悟りしに因る。遂にイエスを離れて去り往けり。

12:13 かくて彼らイエスの言尾をとらへて陷入れん爲に、パリサイ人とヘロデ黨との中より、數人を御許に遣す。12:14 その者ども來りて言ふ

『師よ、我らは知る、汝は眞にして、誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見ず、眞をもて神の道を教へ給へばなり。我ら貢をカイザルに納むるは、宜きか、惡しきか、納めんか、納めざらんか』

12:15 イエス其の詐偽なるを知りて

『なんぞ我を試むるか、デナリを持ち來りて我に見せよ』

と言ひ給へば、12:16 彼ら持ち來る。イエス言ひ給ふ

『これは誰の像、たれの號なるか』

『カイザルのなり』

と答ふ。12:17 イエス言ひ給ふ

『カイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』

彼らイエスに就きて甚だ怪しめり。

12:18 また復活なしと云ふサドカイ人ら、イエスに來り問ひて言ふ12:19

『師よ、モーセは、人の兄弟もし子なく妻を遺して死なば、その兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のため嗣子を擧ぐべしと、我らに書き遺したり。12:20 ここに七人の兄弟ありて、兄妻を娶り、嗣子なくして死に、12:21 第二の者その女を娶り、また嗣子なくして死に、第三の者もまた然なし、12:22 七人とも嗣子なくして死に、終には其の女も死にたり。12:23 復活のとき彼らみな甦へらんに、この女は誰の妻たるべきか、七人これを妻としたればなり』

12:24 イエス言ひ給ふ



『なんぢらの誤れるは、聖書をも神の能力をも知らぬ故ならずや。²⁵人、死人の中より甦へる時は、娶らず、嫁がず、天に在る御使たちの如くなるなり。²⁶死にたる者の甦へる事に就きては、モーセの書の中なる柴の條に、神モーセに「われはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と告げ給ひし事あるを、未だ讀まぬか。²⁷神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり。なんぢら大に誤れり』

12:28 學者の一人、かれらの論じをるを聞き、イエスの善く答へ給へるを知り、進み出でて問ふ

『すべての誠命のうち、何か第一なる』

12:29 イエス答へたまふ

『第一は是なり「イスラエルよ聽け、主なる我らの神は唯一の主なり。³⁰なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡し、力を盡して、主なる汝の神を愛すべし」³¹第二は是なり「おのれの如く汝の隣を愛すべし」此の二つより大なる誠命はなし』

12:32 學者こふ

『善きかな師よ「神は唯一にして他に神なし」と言ひ給へるは眞なり。12:33「いころを盡し、知慧を盡し、力を盡して神を愛し、また己のごとく隣を愛する」は、もろもろの燔祭および犠牲に勝るなり』

12:34 イエスその聰く答へしを見て言ひ給ふ

『なんぢ神の國に遠からず』

此の後たれも敢へてイエスに問ふ者なかりき。12:35 イエス宮にて教ふるとき、答へて言ひ給ふ

『なにゆる學者らはキリストをダビデの子と言ふか。³⁶ダビデ聖靈に感じて自らいへり、「主わが主に言ひ給ふ、我なんぢの敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」と。³⁷ダビデ自ら彼を主と言ふ、されば争でその子ならんや』大なる群衆は喜びてイエスに聽きたり。12:38 イエスその教のうちに言ひたまふ『學者らに心せよ、彼らは長き衣を着て歩むこと、市場にての敬禮、³⁹會堂の上座、饗宴の首席を好み、⁴⁰また寡婦らの家を呑み、外見をつくりて長き祈をなす。その受くる審判は更に厳しからん』

12:41 イエス賽銭函に對ひて坐し、群衆の錢を賽銭函に投げ入るるを見給ふ。富める多くの者は、多く投げ入れしが、12:42 一人の貧しき寡婦きたりて、レプタ二つを投げ入れたたり、即ち五厘ほどなり。12:43 イエス弟子たちを呼び寄せて言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、この貧しき寡婦は、賽銭函に投げ入るる凡ての人よりも多く投げ入れた。』⁴⁴凡ての者は、その豊なる内よりなげ入れ、この寡婦



は其の乏しき中より、凡ての所有、即ち己が生命の料をことごとく投げ入れたればなり』

13:1 イエス宮を出で給ふとき、弟子の一人いふ

『師よ、見給へ、これらの石、これらの建造物、いかに盛ならずや』

13:2 イエス言ひ給ふ

『なんぢ此等の大なる建造物を見るか、一つの石も崩されずしては石の上に残らじ』

13:3 オリブ山にて宮の方に對ひて坐し給へるに、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレ竊に問ふ 13:4

『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又すべて此等の事の成し遂げられんとする時は、如何なる兆あるか』

13:5 イエス語り出で給ふ

『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。⁶多くの者わが名を冒し來り「われは夫なり」と言ひて多くの人を惑さん。⁷戦争と戦争の噂とを聞くとき懼るな、かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。⁸即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に地震あり、饑饉あらん、これらは産の苦難の始なり。⁹汝等みづから心せよ、人々なんぢらを衆議所に付さん。なんぢら會堂に曳かれて打たれ、且わが故によりて、司たち及び王たちの前に立てられん、これは證をなさん爲なり。¹⁰かくて福音は先づもろもろの國人に宣傳へらるべし。¹¹人々なんぢらを曳きて付さんとき、何を言はんと預じめ思ひ煩ふな、唯そのとき授けらるることを言へ、これ言ふ者は汝等にあらず、聖靈なり。¹²兄弟は兄弟を、父は子を死にわたし、子らは親たちに逆ひ立ちて死なしめん。¹³又なんぢら我が名の故に凡ての人に憎まれん、されど終まで耐へ忍ぶ者は救はるべし。¹⁴「荒す惡むべき者」の立つべからざる所に立つを見ば（讀むもの悟れ）その時ユダヤにをる者どもは、山に遁れよ。¹⁵屋の上にをる者は、内に下るな。また家の物を取り出さんとて内に入るな。¹⁶畑にをる者は上衣を取らんとて歸るな。¹⁷其の日には孕りたる女と、乳を哺乳する女とは禍害なるかな。¹⁸この事の冬おこらぬやうに祈れ、¹⁹その日は患難の日なればなり。神の萬物を造り給ひし開闢より今に至るまで、かかる患難はなく、また後にもなからん。²⁰主その日を少くし給はずば、救はるる者一人だになからん。されど其の選び給ひし選民の爲に、その日を少くし給へり。²¹其の時なんぢらに「視よ、キリスト此處にあり」「視よ、彼處にあり」と言ふ者ありとも信すな。²²偽キリスト・偽預言者ら起りて、徴と不思議とを行ひ、爲し得べくは、選民をも惑さんとするなり。²³汝らは心せよ、あらかじめ之



を皆なんぢらに告げおくなり。²⁴其の時、その患難ののち、日は暗く、月は光を發たず。²⁵星は空より隕ち、天にある萬象ふるひ動かん。²⁶其のとき人々、人の子の大なる能力と榮光とをもて、雲に乗り來るを見ん。²⁷その時かれは使者たちを遣して、地の極より天の極まで、四方より其の選民をあつめん。²⁸無花果の樹よりの譬を學べ、その枝すでに柔くなりて葉芽ぐめば、夏の近きを知る。²⁹かくの如く此等のことの起るを見ば、人の子すでに近づきて門邊にいたるを知れ。³⁰まことに汝らに告ぐ、これらの事ごとく成るまで、今の代は過ぎ逝くことなし。³¹天地は過ぎゆかん、されど我が言は過ぎ逝くことなし。³²その日その時を知る者なし。天にある使者たちも知らず、子も知らず、ただ父のみ知り給ふ。³³心して目を覺しをれ、汝等その時の何時なるかを知らぬ故なり。³⁴例へば家を出づる時、その僕どもに權を委ねて、各自の務を定め、更に門守に、目を覺しをれと命じ置きて、遠く旅立したる人のごとし。³⁵この故に目を覺しをれ、家の主人の歸るは、夕か、夜半か、鶏鳴くころか、夜明か、いづれの時なるかを知らねばなり。³⁶恐らくは俄に歸りて、汝らの眠れるを見ん。³⁷わが汝らに告ぐるは、凡ての人に告ぐるなり。目を覺しをれ』

14:1 さて過越と除酵との祭の二日前となりぬ。祭司長・學者ら詭計をもてイエスを捕へ、かつ殺さんと企てて言ふ 14:2

『祭の間は爲すべからず、恐らくは民の亂あるべし』

14:3 イエス、ベタニヤに在して、癩病人シモンの家にて食事の席につき居給ふとき、或女、價高き混なきナルドの香油の入りたる石膏の壺を持ち來り、その壺を毀ちてイエスの首に注ぎたり。 14:4 ある人々、憤ほりて互に言ふ

『なに故かく濫に油を費すか、14:5 この油を三百デナリ餘に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』

而して甚く女を咎む。 14:6 イエス言ひ給ふ

『その爲すに任せよ、何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせり。⁷貧しき者は常に汝らと偕にをれば、何時にても心のままに助け得べし、されど我は常に汝らと偕にをらず。⁸此の女は、なし得る限をなして、我が體に香油をそそぎ、あらかじめ葬りの備をなせり。⁹まことに汝らに告ぐ、全世界いづこにても、福音の宣傳へらるる處には、この女の爲しし事も記念として語らるべし』

14:12 除酵祭の初の日、即ち過越の羔羊を屠るべき日、弟子たちイエスに言ふ

『過越の食をなし給ふために、我らが何處に往きて備ふることを望み給ふか』

14:13 イエス二人の弟子を遣さんとして言ひたまふ



『都に往け、然らば水をいれたる瓶を持つ人、なんぢらに遇ふべし。之に従ひ往き、¹⁴その入る所の家主に「師いふ、われ弟子らと共に過越の食をなすべき座敷は何處なるか」と言へ。¹⁵さらば調へ備へたる大なる二階座敷を見すべし。其處に我らのために備へよ』

14:16 弟子たち出で往きて都に入り、イエスの言ひ給ひし如くなるを見て、過越の設備をなせり。

14:17 日暮れてイエス十二弟子とともに往き、14:18みな席に就きて食するとき言ひ給ふ『まことに汝らに告ぐ、我と共に食する汝らの中の一人、われを賣らん』

14:19 弟子たち憂ひて一人一人
『われなるか』

と言ひ出でしに、14:20 イエス言ひたまふ

『十二のうちの一人にて、我と共にパンを鉢に浸す者は夫なり。²¹實に人の子は已に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よりしものを』

14:22 彼ら食しをる時、イエス、パンを取り、祝してさき、弟子たちに與へて言ひたまふ『取れ、これは我が體なり』

14:23 また酒杯を取り、謝して彼らに與へ給へば、皆この酒杯より飲めり。14:24 また言ひ給ふ

『これは契約の我が血、おほくの人の爲に流す所のものなり。²⁵まことに汝らに告ぐ、神の國にて新しきものを飲む日までは、われ葡萄の果より成るものを飲まじ』

14:26 かれら讚美をうたひて後、オリブ山に出でゆく。14:27 イエス弟子たちに言ひ給ふ

『なんぢら皆躓かん、それは「われ牧羊者を打たん、さらば羊散るべし」と録されたるなり。²⁸されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』

14:29 時にペテロ、イエスに言ふ

『假令みな躓くとも、我は然らじ』

14:30 イエス言ひ給ふ

『まことに汝に告ぐ、今日この夜、鶏ふたたび鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』

むべし』

14:31 ペテロ力をこめて言ふ

『われ汝とともに死ぬべき事ありとも、汝を否まず』

弟子たち皆かく言へり。

14:32 彼らゲッセマネと名づくる處に到りし時、イエス弟子たちに言ひ給ふ



『わが祈る間、ここに座せよ』

14:33 かくてペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひゆき、甚く驚き、かつ悲しみ出でて言ひ給ふ
14:34

『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり、汝ら此處に留りて目を覺しをれ』

14:35 少し進みゆきて、地に平伏し、若しも得べくば此の時の己より過ぎ往かんことを祈りて言ひ給ふ 14:36

『アバ父よ、父には能はぬ事なし、此の酒杯を我より取り去り給へ。されど我が意のままを成さんとあらず、御意のままを成し給へ』

14:37 來りて、その眠れるを見、ペテロに言ひ給ふ

『シモンよ、なんぢ眠るか、一時も目を覺しをること能はぬか。³⁸なんぢら誘

惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』

14:39 再びゆき、同じ言にて祈り給ふ。 14:40 また來りて彼らの眠れるを見たまふ、是の目いたく疲れたるなり、彼ら何と答ふべきかを知らざりき。 14:41 二度來りて言ひたまふ

『今は眠りて休め、足れり、時きたれり、視よ、人の子は罪人らの手に付さるるなり。⁴²起て、われらは往くべし。視よ、我を賣る者ちかづけり』

14:43 なほ語りぬ給ふほどに、十二弟子の一人なるユダ、やがて近づき來る、祭司長・學者・長老らより遣されたる群衆、劍と棒とを持ちて之に伴ふ。 14:44 イエスを賣るもの、あらかじめ合圖を示して言ふ

『わが接吻する者はそれなり、之を捕へて確と引きゆけ』

14:45 かくて來りて直ちに御許に往き『ラビ』と言ひて接吻したれば、 14:46 人々イエスに手をかけて捕ふ。 14:48 イエス人々に對ひて言ひ給ふ

『なんぢら強盜にむかふ如く、劍と棒とを持ち、我を捕へんとて出で來るか。』

⁴⁹我は日々なんぢらと偕に宮にありて教へたりしに、我を執へざりき、され

ど是は聖書の言の成就せん爲なり』

14:50 其のとき弟子みなイエスを棄てて逃げ去る。

14:57 遂に或者ども起ちて偽證して言ふ 14:58

『われら此の人の「われは手にて造りたる此の宮を毀ち、手にて造らぬ他の宮を三日にて建つべし」と云へるを聞けり』

14:59 然れど尚この證據もあはざりき。 14:60 かくに大祭司、中に立ちイエスに問ひて言ふ

『なんぢ何をも答へぬか、此の人々の立つる證據は如何に』

14:61 それどイエス黙して何をも答へ給はず。大祭司ふたたび問ひて言ふ

『なんぢは頌むべきものの子キリストなるか』



14:62 イエス言ひ給ふ

『われは夫なり、汝ら、人の子の全能者の右に坐し、天の雲の中にありて来るを見ん』

14:63 此のとき大祭司おのが衣を裂きて言ふ

『なんぞ他に證人を求めん。 14:64 なんぢら此の瀆言を聞けり、如何に思ふか』
かれら舉りてイエスを死に當るべきものと定む。

14:70 ペテロ重ねて肯はず、暫くしてまた傍らに立つ者どもペテロに言ふ

『なんぢは慥にかの黨與なり、汝もガリラヤ人なり』

14:71 此の時ペテロ盟ひかつ誓ひて

『われは汝らの言ふ其の人を知らず』

と言ひ出づ。 14:72 その折しも、また鶏なきぬ。ペテロ

『にはとり二度なく前に、なんぢ三度われを否まん』

とイエスの言ひ給ひし御言を思ひいだし、思ひ反して泣きたり。

15:2 ヒラト、イエスに問ひて言ふ

『なんぢはユダヤ人の王なるか』

答へて言ひ給ふ

『なんぢの言ふが如し』

15:3 祭司長らやめまに訴ふれば、15:4 ヒラトまた問ひて言ふ

『なんにも答へぬか、視よ、如何に多くの事をもて訴ふるか』

15:5 われどヒラトの怪しむばかり、イエス更に何をも答へ給はず。

15:29 往來の者どもイエスを譏り、首を振りて言ふ

『ああ、宮を毀ちて三日のうちに建つる者よ、15:30 十字架より下りて己を救へ』

15:31 祭司長らも亦同じく、學者らと共に嘲弄して互に言ふ

『人を救ひて、己を救ふこと能はず、15:32 イスラエルの王キリスト、いま十字架

より下りよかし、さらば我ら見て信ぜん』

共に十字架につけられたる者どもも、イエスを罵りたり。

15:33 晝の十二時に、地のうへ徧く暗くなりて、三時に及ぶ。 15:34 三時にイエス大聲に

『エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニ』

と呼はり給ふ。之を釋けば、わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひし、との意なり。

15:35 傍らに立つ者のうち或人々これを聞きて言ふ

『視よ、エリヤを呼ぶなり』

15:36 一人はしり往きて、海綿に酸き葡萄酒を含ませて葦につけ、イエスに飲ましめて言

ふ

『待て、エリヤ來りて、彼を下すや否や、我ら之を見ん』



15:37 イエス大聲を出して息絶え給ふ。 15:38 聖所の幕、上より下まで裂けて二つとなりたり。 15:39 イエスに向ひて立てる百卒長、かかる様にて息絶え給ひしを見て言ふ

『實にこの人は神の子なりき』

16:1 安息日終りし時、マグダラのマリヤ、ヤコブの母マリヤ及びサロメ、往きてイエスに抹らんとて香料を買ひ、 16:2 一週の首の日、日の出でたる頃いと早く墓にゆく。 16:3 墓に入り、右の方に白き衣を著たる若者の坐するを見て甚く驚く。 16:6 若者いふ

『おどろくな、汝らは十字架につけられ給ひしナザレのイエスを尋ねれど、既に甦へりて、此處に在さず。 視よ、納めし處は此處なり。 16:7 されど往きて弟子たちとペテロとに告げよ』汝らに先だちてガリラヤに往き給ふ、彼處にて謁ゆるを得ん、曾て汝らに言ひ給ひしが如し』

16:8 女たち甚く驚きをののき、墓より逃げ出でしが、懼れたれば一言をも人に語らざりき。

16:14 其ののち十一弟子の食しをる時に、イエス現れて、己が甦へりたるを見し者どもの言を信ぜざりしにより、其の信仰なきと、其の心の頑固なるとを責め給ふ。 16:15 かくて彼らに言ひたまふ

『全世界を巡りて凡ての造られしものに福音を宣傳へよ。 ¹⁶信じてバプテスマを受くる者は救はるべし、然れど信ぜぬ者は罪に定めらるべし。 ¹⁷信ずる者には此等の徴ともなはん。 即ち我が名によりて惡鬼を逐ひいだし、新しき言をかたり、 ¹⁸蛇を握るとも、毒を飲むとも、害を受けず、病める者に手をつけなば癒えん』

16:19 語り終へてのち、主イエスは天に擧げられ、神の右に坐し給ふ。 16:20 弟子たち出でて、あまねく福音を宣傳へ、主も亦ともに働き、伴ふところの徴をもて、御言を確うし給へり』

